

「明日の京都」丹後地域振興計画

「交流」と「共感」による「美しく元気な丹後」の実現

京都府丹後広域振興局

<目 次>

1	策定の趣旨	1
2	地域特性	2
3	地域の将来像	4
4	施策の基本方向	5
	第1 産業振興による丹後地域の活性化	5
	第2 環境と文化の伝承	5
	第3 府民生活の安心・安全の確保	6
	第4 府民がいきいきと暮らせる地域づくり	6
5	重点施策及び地域プロジェクト	7
	第1 産業振興による丹後地域の活性化	7
	1-1 丹後地域の活性化を牽引する観光振興	7
	1-2 ものづくり産業等地域産業の振興	15
	第2 環境と文化の伝承	19
	第3 府民生活の安心・安全の確保	23
	3-1 災害対策の強化と安心・安全の構築	23
	3-2 府民安心のまちづくり	27
	第4 府民がいきいきと暮らせる地域づくり	33
	【地域プロジェクト】	37

1 策定の趣旨

京都府では、平成16年5月、地域機関の再編によって広域振興局を設置し、現地現場主義の観点から、それぞれの広域振興局において地域振興計画を策定して、地域特性に応じた地域振興策を進めてきたところです。

京都府政の基本指針となる「明日の京都」は、変化の激しい時代にも柔軟かつ機動的に様々な課題に対応できるよう、いつの時代も変わることのない府政運営の基本理念や原則等を示す「基本条例」、めざす将来の京都府社会の姿を示す「長期ビジョン」、府域全体を考えながらこれからの京都づくりの戦略をまとめた「中期計画」に加えて、それぞれの地域が有する特色ある資源をいかす「地域振興計画」で構成されています。

丹後地域では、観光業、農林水産業、織物業、機械金属業など、地域の特性をいかし、また、長年の歴史と伝統に培われた技術をいかした様々な産業が展開されています。

さらに、変化に富み、人々を魅了する海と山などの自然、随所に息づく歴史と文化など、多くの魅力ある地域資源があり、そして何よりも、地域を守り育てるため、環境、文化、福祉、地域振興など様々な分野で、多くの方が、いきいきと活動されています。

一方で、これまでに経験したことがないような人口減少・少子高齢化や、交通網の整備による社会・経済情勢の変化など、丹後地域を取り巻く状況は大きく変化し始めています。

こうした中で、丹後地域振興計画では、平成23年1月にスタートした現行計画について、今日の社会・経済情勢の変化に応じて修正しつつ、長期ビジョンでめざす京都府社会の実現に向けて、丹後地域の未来を築くため、今後（平成27年4月から平成31年3月まで）重点的、戦略的に推進すべき必要な取組について示しています。

具体的には、丹後地域の特性を踏まえて、「海の京都」構想に基づく交流人口の増加による地域の活性化、織物業や機械金属業等の地域基幹産業の振興、災害に強く、健康長寿で安心して暮らせる府民生活の安心・安全の確保などを「地域の将来像」として掲げ、この実現をめざして、「産業振興による丹後地域の活性化」など4の「施策の基本方向」と「重点施策」及び5の「地域プロジェクト」による取組を定めています。

そして、これらの取組については、市町、関係団体はもとより、幅広い住民の皆さんの参画をいただき、住民協働により進めていきます。

なお、本計画に取り上げていない多くの課題についても、上記「中期計画」に基づき取り組んでいくこととしています。

また、毎年設定する運営目標を通じて、「目標の設定」・「実施」・「評価」・「見直し」というPDCAサイクルにより、絶えず、この計画を点検しながら推進していくこととしています。

2 地域特性

(1) 位置・地勢等

人々を魅了する自然景観に恵まれた丹後地域

丹後地域（宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町）は、京都府の最北部に位置し、東は舞鶴市、西は兵庫県豊岡市、南は福知山市に接し、面積は約 845 k m²と府全体（4,613 k m²）の約 18%を占めています。

丹後半島の東と西には、それぞれに砂嘴を持つ宮津湾と久美浜湾があり、南には大江山連峰、中央には丹後山地が連なり、その中央部を竹野川が流れています。由良海岸から久美浜湾に至る海岸線は変化に富み、天橋立、伊根湾、経ヶ岬、夕日ヶ浦など、様々な貴重な地質遺産を有し、東側は丹後天橋立大江山国定公園、西側は山陰海岸国立公園に指定されています。

また、自然環境保全地域の上世屋、内山のブナ林、鳴き砂で有名な琴引浜、日本の棚田百選に選ばれた袖志の棚田、更には各所に湧出する 170 を超える温泉など、自然景観に恵まれた地域です。

気候は四季の変化に富む日本海型気候で、夏は気温が高い日が続き、晩秋から冬にかけては「浦西」といわれる季節風とそれに伴う時雨現象で、不安定な天候となります。冬季には山間部では 1 m を超す積雪が見られることもあります。

こうした気候は生活に厳しさをもたらす一方、良質な水や適度な湿気が、米作りなど農林水産業や丹後ちりめんなどの織物業に対する恵みとなってきました。

(2) 歴史・文化

歴史・文化のロマンあふれる丹後地域

丹後地域は、縄文・弥生時代から大陸との交流が活発に行われていたと考えられ、蛭子山古墳など日本海三大古墳をはじめとする古墳群が残されているように、いわゆる「丹後王国」として「大和朝廷」に比肩する独自の繁栄を遂げていたとみられます。

その後、奈良時代の 713 年（和銅 6 年）に丹波国から分かれ丹後国が置かれましたが、江戸時代には宮津藩、峰山藩と田辺藩（現在の舞鶴市）の三藩に分割され、さらに江戸中期以降は、幕府の天領として久美浜代官所が置かれました。明治維新後は、久美浜県が先に置かれ、廃藩置県による宮津県、峰山県、舞鶴県を経て、1876 年（明治 9 年）には京都府に統合されました。

また、丹後七姫（安寿姫、乙姫、小野小町、静御前、間人皇后、羽衣天女、細川ガラシャ）、浦島太郎、徐福など数多くの伝説や民話が存在するほか、わが国最古の製鉄所遺跡である遠處遺跡製鉄工房跡、江戸後期の北前船で繁栄した豪商の住宅、重要伝統的建造物群保存地区の「伊根浦舟屋群」や「ちりめん街道」などもあり、歴史・文化のロマンあふれる地域です。

(3) 産業

豊かな食、ものづくりの伝統・技術が息づく丹後地域

産業分類別の就業比率は、第 1 次産業 8%、第 2 次産業 29%、第 3 次産業 63%となっていますが、基幹産業である農林水産業、織物業、機械金属業など、第 1 次産業、第 2 次産業の比率が、他地域よりも高くなっています。

こうした中で、これまでに通算 11 回の特 A 評価を受けている丹後産コシヒカリやブランド京野菜、

間人ガニや伊根ブリなど丹後地域ならではの食に加え、茶、丹後とり貝、丹後ぐじ、イワガキなど新たな農産物、水産物の生産等が始まるなど、「丹後・食の王国」と呼ぶのにふさわしい豊かな食に恵まれています。

また、丹後地域のものづくり産業として根付く織物業や機械金属業は、生活スタイルの変化や厳しい経済状況の中でも脈々と受け継がれており、こうした高い技術力をいかした製品開発など新たな産業発展につながる可能性も秘めています。

(4) 人口等

高齢者など人々がいきいきと活動する健康長寿の丹後地域

丹後地域では、全国や京都府の平均を上回る少子高齢化が進行しており、地域の社会経済全般にわたり様々な影響を与えています。

丹後地域の人口は、2010年（平成22年）の国勢調査では104,850人で、長期的な人口減少と高齢化が進み、1970年（昭和45年）の140,186人と比べ、40年間で約25%減少しました。また、65歳以上の人口比率は、この間に11%から33.6%（平成26年3月31日現在推計人口）へと急激に上昇しており、保健・医療・介護体制の一層の整備充実が求められています。

一方、100歳以上の長寿者の比率が府平均の約2倍であるとともに、多くの高齢者が農林水産業等に従事したり、様々な行事や伝統文化の維持・継承に携わるなど、高齢者が健康でいきいきと活動されている地域でもあります。

(5) 生活基盤等

関西・中京圏へのアクセス充実により発展をめざす丹後地域

関西・中京圏と結ぶ高規格道路として、京都府の南北軸を形成する京都縦貫自動車道（京都市～宮津市）と、舞鶴若狭自動車道があり、丹後地域の観光・産業振興の基盤となる京都縦貫自動車道の全線開通に続き、日本海軸を形成する山陰近畿自動車道（鳥取市～宮津市）の早期整備が期待されています。

丹後地域の幹線道路としては、国道178号、312号とこれにアクセスする国道176号、482号や府道網野岩滝線等の主要地方道等により道路ネットワークが形成されています。

第三セクター方式により運営される北近畿タンゴ鉄道（KTR）は、昭和63年に宮福鉄道「宮福線」として開業し、現在、丹後地域のほぼ東西を横断し兵庫県豊岡市と舞鶴市を結ぶ宮津線と、宮津市と福知山市を結ぶ宮福線が運行されていますが、現状のまま推移すれば、人口減少等による利用者数の減少が見込まれる中で、他の交通機関とともに、地域の生活、観光等の基盤として、地域全体で支えていくことが重要になっています。

3 地域の将来像

丹後地域は、優れた自然景観やロマンあふれる歴史・文化、海の幸・山の幸など豊かな食、そして古代以来のものづくりの技術や伝統など、様々な資源に恵まれた地域ですが、京阪神地域から約 100 k m 離れていることなどが、観光・産業の振興を図る上で制約となってきました。

近年は、平成 26 年に開通した舞鶴若狭自動車道、平成 27 年に全面開通する京都縦貫自動車道、平成 28 年度に京丹後市域までの延伸が予定されている山陰近畿自動車道や上下分離方式による事業再編をめざしている K T R をはじめ、交通基盤の整備等が着実に進められており、また、近接する京都舞鶴港は、大型クルーズ船に対応したふ頭整備も進められ、陸と海の双方から多くの人とものの流れが増大することが期待されます。

一方で、丹後地域は府内で最も高齢化が進んでいるとともに、少子化による人口減少が続いています。また、近年は、台風や局地的豪雨等の異常気象による災害が各地で頻発しており、この地域でも、台風による風水害と豪雪による被害が規模の大小にかかわらずほぼ毎年発生するなど、生活の安心・安全への対策が一層重要になっています。

このような状況から、「海の京都」構想に基づく交流人口の増加による地域活性化、織物業や機械金属業をはじめとする地域基幹産業の振興、丹後産コシヒカリや間人ガニ、イワガキ等のすばらしい「食」を生み出す農林水産業の一層の発展により、活力ある地域をつくとともに、災害に強い地域づくりや、少子高齢化への対応等をはじめとした府民生活の安心・安全の基盤を確保することにより、未来を担う若者が地域に誇りと愛着を持ち、子どもから高齢者まで誰もが安心していきいきと暮らせる元気な地域をめざします。

今、府北部地域では、公共交通網の整備が着実に進められており、地域間交流がますます活発になることが見込まれます。こうした公共交通網の更なる利便性向上を核に、各市町が役割を分担・補完しあいながら、広域的な生活・産業基盤を形成し、農山漁村としての魅力と産業等が集積する都市機能を兼ね備えた魅力的な生活圏の構築を進めていきます。

4 施策の基本方向

～「交流」と「共感」による「美しく元気な丹後」の実現～

京都縦貫自動車道の全線開通等「交流基盤」の整備を礎に、「海の京都」構想に基づく「交流人口」の増加をめざした取組、地場産業の振興による「グローバルな交流」、人口減少や少子化に対応していくための「地域間交流」、丹後地域の資源や魅力、温かさなどの「美しさ」に「共感」し元気な地域づくりを支える「地域内交流」など、丹後地域振興計画では、「交流」「共感」をキーワードに、豊かな自然や伝統文化、温かい風土、そしてそれらを支える人々のいきいきとした活動を育む「美しく元気な丹後」づくりを進めていくこととしています。

「交流」「共感」を促進していくためには、一人ひとりの安心と安全が守られるとともに、すべての人が自分らしくいきいきと暮らしていくことのできる社会を築いていくことが最も基本的な条件となります。

そして、災害への対応など安心できる生活を確保するとともに、同和問題や女性、子ども、高齢者、障害のある人、外国人、患者等に対する様々な人権問題の解決に向けた取組が必要です。誰もが人権の尊重を日常生活の習慣として身に付けて実践できるようにするとともに、市町村や企業、NPO、地域団体など、様々な人々との絆を更に深めていくことにより、以下の施策を推進していきます。

第1 産業振興による丹後地域の活性化

1-1 丹後地域の活性化を^{けん}牽引する観光振興

過疎化や少子高齢化が進行し、今後も人口減少が予想される中であって、「海の京都」構想に基づき、地域の自然・文化・歴史遺産等の資源をいかす「観光」を^{けん}牽引役として、交流人口を増やし、「食」関連をはじめとする様々な産業への波及効果により、雇用拡大など地域の活性化をめざします。

1-2 ものづくり産業等地域産業の振興

丹後地域の活性化を支える産業基盤として、織物業・機械金属業をはじめとする「ものづくり産業」などの地域産業について、担い手の確保・育成を図るとともに、世界に通じる新商品開発や試作品製造など多品種少量生産の時代の流れに対応できる「オンリーワン企業」の育成により、地域産業の振興を図ります。

第2 環境と文化の伝承

地域振興、まちづくりなどを通じて、丹後地域の豊かな自然・景観・環境・文化を守り育て、次世代に伝えていきます。

また、地域の特性をいかした観光事業、地域資源や自然を活用したエネルギー事業など、新たな方策での地域活性化をめざします。

第3 府民生活の安心・安全の確保

3-1 災害対策の強化と安心・安全の構築

災害に強い地域づくり、人づくりを進めるとともに、災害に強い道路ネットワークの整備や建物の耐震化、ハード、ソフト一体となった洪水・土砂災害・集中豪雨対策を推進し、災害から人命、財産を守ります。

3-2 府民安心のまちづくり

少子高齢化などで人口減少が進行する中で、保健、医療、福祉施策を一層充実し、健康長寿で安心に暮らせる地域づくり、若者が安心して結婚し、出産、子育てができる地域づくりを進めます。

第4 府民がいきいきと暮らせる地域づくり

「将来の丹後地域を見据え、若者が誇りと愛着を持って暮らせる地域づくり」を合い言葉に、地域力再生活動の推進をはじめ、より利用しやすい公共交通の実現など、ふるさと定住や、地域の生活や活動、地域内外の交流を支えるとともに、一人ひとりの人権が守られ、自分らしく暮らせる地域をつくります。

オール丹後での地域プロジェクトによる地域課題への対応

これらの施策を進めていく上での地域課題に対して、住民や管内市町と連携・協働しながら、「オール丹後」の力をいかした「地域プロジェクト」として戦略的に取り組みます。